

市民福祉常任委員会行政視察報告

平成29年10月25日～27日

○笹川信子 ○武藤元美 阿部銀次郎 熊倉均
武石栄二 高坂登志郎 酒井健

伊万里をつくり 市民とともにぞたつ 市民の図書館

○伊万里市民図書館について

(佐賀県伊万里市)

館内には、登り窯を模したお話し会の部屋や油菓の原料になる木・イスノキを配置したコーナーなど、焼き物のまち・伊万里らしさを大切に工夫が随所に見られる。



伊万里市民図書館 のぼりがまのおへや

また、家族みんなで好きな本を読み、読んだ本について話す「家読」など、読書活動の推進に力を入れている。

開館から20年を経た今も毎年図書館の誕生日を祝う会に多くの市民が集い、350人の会員を擁する「図書館フレンズいまり」が「協力と提言」を合言葉に自主的な活動を展開しており、まさに「市民」図書館の名前が表す通り、市民に愛され、支えられている図書館だと感じた。

住み慣れた地域で安心して療養するために

○包括ケアまちなかラウンジ運営事業について

(長崎県長崎市)

同ラウンジは、病気や障がいにより療養を余儀なくされた人やその家族のための総合相談窓口である。平成28年度は、延べ2349人から医療・介護・福祉に関する相談を受け付け、関係機関との連携も640件に上っている。また、多職種連携による包括的な支援体制の構築、在宅医療に関する市民への啓発にも積極的に取り組んでいる。相談に当たる職員には、市内の大学

病院等で退院調整看護師を経験した人もおり、医療機関側の状況を十分把握していることがスムーズな連携を可能にしていると感じた。

既成概念にとらわれないサービスを提供

○武雄市図書館および武雄市子ども図書館について

(佐賀県武雄市)

武雄市図書館では、書店が境界なく併設され、どちらの本も館内のカフェで購入したコーヒ―等を味わいながら読むことができる。また、年中無休・1日12時間の開館、セルフカウンター利用者へのTポイントの付与など、これまでの公立図書館では考えられなかったサービスが提供されている。

10月1日に開館したばかりの武雄市子ども図書館は、館内にイベントスペースやフードコート、館外に芝生広場などもあり、子どもと楽しく過ごせる施設となっている。

武雄市図書館のリニューアル後、利用者はもちろん、交流人口や移住者が増加し、まちの知名度や地価も上昇したとのことで、魅力的な施設を持つ大きな可能性を感じた。



武雄市子ども図書館 図書スペース

○まとめ

高齢化が進展することにより、自宅で療養を続け、最期を迎える人は一層増加すると予想される。医療・介護資源に限りがある中、そういった人を支援する体制の構築、強化が不可欠と考える。

また、三条市では図書館等複合施設の建設が計画されているところであり、議会としても子どもから大人まで楽しむことができる施設となるよう尽力したい。

経済建設常任委員会行政視察報告

平成29年11月8日～10日

○坂井良永 ○河原井拓也 下村喜作 森山昭
杉井旬 山田富義

経営者の心に寄り添う徹底的な企業支援

○板橋区立企業活性化センターについて

(東京都板橋区)

同センターは創業および中小企業の経営革新を支援し、区内産業の活性化を図ることを目的に設置された。平成20年にここで結成された経営改善チ



板橋区立企業活性化センターにて説明を受ける

ムは、特に中小零細企業等に対する経営改善に取り組んでおり、資金調達、販路拡大から事業承継等まで適切な専門家や金融機関等と連携を図る中で幅広い相談に対応し、経営者の心に寄り添った支援をしている。これは「板橋モデル」として全国的に注目されている。

農業を核に多彩な事業を展開

○農事組合法人と郷園について

(千葉県香取市)

同法人は、農産物の生産を担いながら農産物にさまざまな付加価値を付けた商品流通を担う株式会社和郷と密接に連携し、生産から加工、流通までを一気通貫で手掛けることにより、マーケットインの発想で事業を行ってきており、6次産業化の事業モデルを構築、発展させてきた実績がある。

基本理念は「生産者の自律」とし、生産からリサイクルまで総合的に行う自然循環型農業を進めながら国内外で多角的なアグリビジネスを展開している。



農園リゾート「The Farm」内の見学

発注者、受注者、市民の三方にメリットのあるインフラ管理の成功事例

○道路等包括管理事業について

(東京都府中市)

府中市は、インフラの維持管理について、今後は更新投資増大と市の歳入減少が進み、これまでどおり行うことが困難になるとの予測からインフラマネジメント白書および計画を策定。全国に先駆け、インフラの維持管理を包括的に民間委託する取り組みを始めた。

けやき並木通りや周辺地区の維持補修、街路樹の剪定等を2014年度から3年間試行的に委託した結果、市、受注業者、市民の三者にとってメリットがあると評価するに至った。

○まとめ

板橋区においては板橋モデルの導入やセンター長との連携、農事組合法人と郷園においては流通の確保を念頭に、三条市の果樹集団とのより良い事業構築について検討していく必要性を感じた。また、府中市の事例は三条市における包括的維持管理委託事業の先行事例として参考になると感じた。

いずれも先進的な成功事例であり、取り入れられるものは取り入れながら、今後の事業の動向も注視していきたい。



府中市役所にて説明を受ける